

だまっちゃおられん!

核燃・だまっちゃおられん津軽の会

会報NO. 18

2011年7月20日発行

住民本位の震災復旧・復興を! 原発・核燃反対!

弘前集会実施

集会は、16団体から80名の参加で行われました。集会でリレートークを行いました会員の発言をご紹介します。

核燃・だまっちゃおられん津軽の会代表 宮永崇史

わたしは「核燃・だまっちゃおられん津軽の会」の代表を務めます、宮永崇史と申します。

いま日本は、世界最悪ともいえる原発事故を起こし、4か月を過ぎてても収束のめどはまだ立っていません。原発周辺の放射能の値は依然として高いままです。私は先週茨城県つくば市へ出張してきましたが、宮城県南部から茨城県のつくば市に至る広範囲まで放射能汚染地域が広がっています。当地の研究者からはアスファルトの上はいいが、土の上を歩くなと言われました。京都大学の小出裕章先生はこのままいくと、日本の法律では、福島県全域が人の立ち入れない土地になると指摘しています。

福島県に次いで危険な原子力立地地域に、静岡県、福井県、そして青森県があります。静岡県浜岡原発は現在停止していますし、福井県も県知事その危険性を理解し、原発再開に難色を示しています。ところが、青森県では昨日、原子力懇話会が開かれ、原発再開に対し、何の反対意見も出なかったと聞きます。このままでは、青森県が第二の福島県になることを強く予言せざるを得ません。今すぐに、県民にポータブル放射線検出器をもたせ、40歳以下の人にはヨウ素剤を配り、事故の場合に即刻移住する計画をねらなければならないと思います。このような県民の感情逆なでするかのよう、青森県は福島事故後のこの5月に県内の小学4年生に、原発の安全性を強調するカレンダーはじめ、クリアファイルや副読本を配布しました。これまでに配布していたものと同様の内容ということです。本日県知事に抗議に行ってきましたが、これには非常識にもほどがあると。県知事はじめ青森県首脳部はまったくこの原発事故のもつ意味を理解していないのです。

この原発事故の後、我々はこれまでの日本の原発政策について深く知るようになりました。なぜ、日本ではこのように原発が増え続けたのか、自らの恥ずかしい部分を学ぶようでした。さらに、最近みた映画「ミツバチの羽音・・・」では、スウェーデンの若者が「私は、自然エネルギーのみの電力会社か



ら電気を買い、電気自動車でも最低限の車移動を心がけている。なに?日本では電力はまだ自由化されていないの?」という言葉投げかけます。それを聞いて私は本当に暗澹たる気持ちになりました。日本を何とかしなければならぬと感じました。

「原発がなくなれば、電気がなくなる。そうでなくとも、原子力のコストが一番安いだから、電気料金が高騰する。」こういう意見もまだまだ聞きます。でも、少しずつではありますが、それが間違いであることがだんだん広がりつつあります。立命館大学の島堅一先生の試算によると、原発コストは経済産業省が試算したものの3倍くらいになり、原子力は最もコスト高になります。さらに、それにはまだ立地地域への交付金や、再処理や廃棄物処分のコストが含まれていないといえます。このように、原子力政策のほころびが白日の目にさらされようとしています。

確かに、物理学的にいても原子力という核反応は、火を燃やす化学反応の100万倍以上のエネルギーを放出するため、当時の科学者をはじめ、人々はこの莫大なエネルギーに魅了されてきました。しかし、そこが問題なのです。我々人類は有史以来、化学反応を制御する技術を身に付けてきましたが、核反応を制御するには至っていません。いつになったらそれを制御できるのかも定かではありません。そのエネルギーの莫大さが、生物の遺伝子を破壊するといった危険性に化け、安全になるまでに10万



年もの長い時間を有することになるのです。私は弘前大学で物理学を教えています。最初に原子力を発見したのは私の尊敬する物理学者たちです。日本でも第1回原子力委員会には湯川秀樹博士が加わっています。今でも、原子力を諦めきれない物理学者もいます。しかし、福島県の悲惨な現状、さらに気の遠くなるような廃棄物の処理を考えると、原子力を生み出し利用してきただけでなく、その終焉を冷静に見通すことが我々現在の科学者の大切な社会的責任と思っています。

ヨーロッパの賢い国々は、国民自ら原発から脱却し、再生可能エネルギーにシフトすることを決めました。日本ではそれができないことが残念でなりません。太陽光エネルギー、風力、波力、バイオマス、我々の周りには可能性の高いエネルギー源がまだまだあります。それらをうまく使えば、原子力から脱却できるという試算はいくつもあります。日本の政治システムは、これらを有効にする体制になっていません。原子力を続けることで、金儲けできる企業や、政治家、特定の地域住民がいるからでしょう。しかし、今こそ我々市民の手で、足で、声で、日本を変えてゆかなければならないと感じます。今日の集会在その第一歩となって、青森県中、さらに日本中にうねりが広がることを願っています。

弘前集会実行委員長・中弘南黒地区労連議長 山本陽子

みなさん、暑い中のご参加おつかれさまで。中弘南黒地区労連議長の山本陽子です。「住民本位の震災復旧・復興を！原発・核燃反対！弘前集会」実行委員会を代表してご挨拶を申し上げます。

3月11日に発生した東日本大震災と福島第一原発事故発生から4ヶ月になろうとしています。7月3日現在で、2万人以上の方が亡くなったり行方不明となっています。また、家も財産も津波に流され、収入を断たれ、避難所生活を強いられている人もまだ大勢います。政府は国民の生活と安全を守る責任があります。そのために地域から声を上げようと、緊急に今日の集会を行うことになりました。

被災地では仮設住宅ができて入れない人もいるということですが、これは電気代や水道料を払わなければならないからだそうです。収入がないのに、どうやって払えというのでしょうか。被災者の皆さんは、毎日の暮らしのなかで、困難に直面していることがたくさんあると思います。震災復興担当大臣をおかなくても、いまの社会保障制度、生活保護制度をつかって、生活再建を急ぐのが、政治に求められていることなのではないでしょうか。

福島では、原発事故の収束にむけ手だてを取っていますが、トラブルが続き、放射能汚染の不安にさらされています。それなのに、菅政権は、九州の玄海原発の再稼働を進めようとしています。この玄海原発は、昨年12月に燃料棒から放射性ヨウ素が一次冷却水に漏洩する事故を起こし、検査のために停止中だったものです。検査では、どこから漏れているのか特定できなかったそうですが、九州伝料は、それ以上の検査は行わないということです。政府は、九電に事故原因の究明を命じるどころか、それを容認する形で佐賀県知事に再稼働要請をしたのです。そうした無責任な態度を許すわけにはいきません。

青森県は東通原発や大間原発、六ヶ所再処理工場など、原子力関連の施設が集中しています。人ごとではありません。原発は放射性廃棄物の処理や管理については、技術的に未確立です。事故が起こりうる可能性はないとはいえません。いったん原発で過酷事故がおこれば、その地域に暮らす日との生活が

奪われてしまうのです。

国会が延長されて2週間、何をやっていたのでしょうか。延長が決まってから1週間は空転、その後におこったのが復興担当相の人事です。被災地支援のために、一日も早く正常化して欲しいものです。

原発から撤退すること、震災復興は企業優先ではなく、住民一人一人の立場で行うことなどを求め、行動しようではありませんか。

東日本大震災の復興計画づくりに 被災者・女性の声 が反映する政治を求めます

新日本婦人の会弘前支部 坂本恵津子

東日本大震災から4ヶ月を迎えます。新日本婦人の会は、震災後ただちに全国で募金に取り組み、約8400万円を被災地に届ながら、寄せられた被災者の声を聞き、47回、176項目にわたる願いを政府や東京電力に要請してきました。弘前支部も30万円を超えるカンパを被災地に届けています。

4月には、政府の復興構想会議の設置にあたり、計画作りに女性を参加させるように求めました。避難所運営への女性の参加、被災地での防犯やDV防止対策、相談活動をすすめるとともに、国・県・地域の復興委員に多くの女性が起用されるよう求めています。

福島原発事故の1日も早い収束に全力をあげ、国民と子どもの健康最優先の対策を求めます。特に、母親が安心して乳幼児を育てられるよう母乳や遊び場、水、食物の安全基準を明らかにして、被曝をさせないために国がリーダーシップを取ってすすめるべきです。また、学校給食や学校内外の活動の安全確保のための万全の措置をとりことを要望します。なにより、全被災者への生活補償を大急ぎおこなってください。

最後になりましたが、国のエネルギー政策を原発推進から持続可能な自然エネルギーへと根本的に転換し、原発から撤退するプログラムをつくることを求めます。

津軽農民組合 須藤宏

集会参加の皆さん

原発を推進してきた歴代政府と電力会社は、今回のような大地震・津波による原発事故は、“起こりえない”“想定不相当”の事故として、当初から安全対策の検討すらしてきませんでした。はじめから無視してきたことが、とりかえしのつかない事故を引き起こし、事故対応の遅れにもつながっています。

放射能汚染による甚大な損害に対して賠償責任がある東電と政府が被災者の切実な賠償要求に背を向けていることは許されません。

東電が「原子力損害賠償紛争審査会」の指針を根拠に、これまでに賠償の仮払いを一部実施したのは避難区域や出荷制限・自主地域のみにとどまっています。しかも、全農（農協）系統の43億円余の賠償請求に対して、支払額は5億円にとどまっています。

広範囲に広がる「風評被害」を先送りし、福島、茨城、栃木、群馬の全市町村と千葉県の2市1町に限定する賠償の「線引き」をおこなおうとしていることは許されません。

東電の不誠実な態度の大本にあるのは、東電が原発事故を“人災”と認めず、“想定外”の自然災害であるとの立場で“免責”に持ち込もうという意図があるからです。

福島・茨城・群馬の農民が損害額を積み上げて賠償請求をしました。あとから東電が独自に作成した書類を送りつけ、それに書き直せと迫っています。

さらに提出書類が不備だと言って、今年の確定申告書の写し、納税証明書、耕作証明書、領収書などの提出を求めています。東電が、確定申告書にもとづく昨年の売り上げが損害賠償の上限だとしていることに、被災者は怒りの声をあげています。

ご存じのように昨年の米は史上最大の暴落を記録しました。野菜類は猛暑でいいものがありませんでした。福島の農民が今年20ヘクタールのほうれん草を作付けしました。しかし放射能汚染で全部だめになりました。「去年は猛暑で品質も値段も悪かった。今年は面積をふやしたのに、去年の売上げを賠償の上限にするのはおかしい」と憤っています。収入をたれた酪農家は、つなぎ資金の融資も断られ、自前の牧草は放射能汚染で使えません。いまだに仮払いしていない東電が、牧草を買うことすらできない酪農家に牧草の領収書の提出を求めています。また、出荷できなくて廃棄処分した野菜について、廃棄証明書の提出を求めています。もう2ヶ月、3ヶ月もたつて誰が廃棄証明を発行できるか。ほんの一例ですが、これが7月1日、農水省交渉でのやりとりです。

原発の理解促進させる教材を県内小学生に配布

だまっちゃんおられん津軽の会では、7月5日、宮永代表、安藤代表と坂本委員、仁平委員が県庁を訪れ、青森県知事に、社会科副読本「あおもりの電気」、クリアファイル・エネルギーカレンダーを小学生に配布したことに対する抗議と回収を求める要請書」を提出しました。教材は、原発事故の前に作成されたもので、「放射線は心配ない」ことを強調したデータがマンガで解説されているものです。

県議会、弘前市議会

核燃問題取り上げ一般質問

安藤晴美代表が県議会で、小西勇一運営委員が弘前市議会で、それぞれ核燃問題を取り上げて一般質問を行いました。

安藤県議の原発・核燃関連の一般質問は、「原子力・エネルギー政策と原子力防災について」で、現在は、福島原発事故を受け原発依存のエネルギー政策をこのまま進めてよいのか真剣な国民的な討論が必要な時として、1、原発の危険性について知事はどう認識しているか、2、原発からのすみやかな撤退と自然エネルギー導入についての知事の見解、3、原子力施設を厳重チェックできるような検証委員会とすべきと思うが、県の見解を求める、4、県地域防災計画(原子力編)の見直しについての県の見解、5、県内小学生に「放射線は心配ない」というデータを強調したクリアファイルと副読本を配布したり、放射線に関する新聞広報を掲載したが、どのような認識で行ったものか、の、5点。

これに対し、県知事は「原子力と再生可能なエネルギーのベストミックスが重要」と答え、原子力の安全確保の徹底を図る、としています。防災計画の見直しに関しては、環境生活部長が、「適切な通信連絡手段や円滑な物資調達方法を確保できる体制、環

これが東電のやり方です。書類が揃わないと賠償はいつまでも店ざらしのままです。

風評被害にいたってはまったく先送りです。青森県の輸出用りんごも、今年は3月11日まで好調に伸びていたのが、この日を境にぐんと落ち込み25%減の減少となりました。当然損害賠償を求めざるを得ません。東電にあらゆる損害を賠償させるたかひは、原発事故の恐ろしさと被害の広がりを小さく見せようとする原発推進派とのたかひでもありません。完全補償をかちとるため、全国の連帯・支援をよびかけます。

最後に、農民連分析センターは、高性能放射能測定装置大小4台を導入することを決めました。食をめぐっては、今後の日本の食品流通にとって放射能問題は軽視することのできない重大な問題になってしまいました。この認識のもと、長期間にわたってデータを集め、国民に情報を提供していくことにしています。そのための測定装置導入のための5000万円募金の訴えをはじめています。みなさんのご理解とご協力をお願いします。

社会科副読本「あおもりの電気」・クリアファイル・エネルギーカレンダーを、小学生に配布したことに対する抗議と回収を求める要請書

青森県は今年4月、県内の小学校4年生に対し、青森県エネルギー総合対策局原子力立地対策課発行、社会科副読本「あおもりの電気」とクリアファイルを、小学校4年生以上の学年に対し、青森県発行、エネルギー総合対策局原子力立地対策課広報企画グループ企画・編纂「あおもりのエネルギーカレンダー」を送付し、子供たちへの提供を依頼しました。

各学校に送付された3種の教材の使用・生徒への配布は、それぞれの学校の判断によってなされたとされています。しかし、東京電力福島第一原発事故が収束の見通しも立たず、放射線被害が周辺住民、特に子どもや妊婦、そして作業にあたる労働者、さらに農業・漁業に多大な影響を及ぼす事態になっている時に、原子力発電所・核燃料サイクル施設の必要性や放射線の「安全性」を知らせる教材を配布したことは、県民感情を逆撫でする非常識さわかりにくい行為であり、無神経にも程があると言わざるを得ません。

原発・核燃の必要性など、県民の間でも議論が分かれる問題を、一方の見解だけを教育の独自性を侵してまで教育の現場に持ち込むことはあってはならないことです。断固抗議すると共に、早急に3種の教材を回収することを要請します。

境整備を行う」べく、国の考えをみながら修正すると答弁しました。クリアファイルの配布については、エネルギー総合対策局長が、「原発事故を受け、放射線に対する県民の関心が高まってきていることから、知識の普及と理解促進を図るために実施した」と聞き直りました。

小西勇一市議は、弘前市議会の初質問で「今回の福島原発事故を受けて、青森県内の原発、再処理工場についての市長の見解を求める」質問を行いました。1、現在の原発技術の水準は、どんな状況にあると考えるか、2、世界有数の地震・津波国に原発が集中立地されていることについて、3、安全審査への固執について、4、原発推進から撤退への転換について、です。

県の市民の意見聴取に出席

県内関連施設の安全性について国に提出される報告書について、7月14日、県は県内市民団体からの意見聴取を行いました。宮永代表が、意見を述べました。その発言をご紹介します。

核燃・だまっちゃおられん津軽の会代表 宮永崇史

私は「核燃・だまっちゃおられん津軽の会」の代表の宮永崇史と申します。まず、このような技術的な資料に対し1週間以内にコメントを求めることには、いかにも無理があるように思いました。昨年の、海外からの廃棄物受け入れの時もそうでしたが、いったい、どういうつもりで知事は私たちの意見を聞くのに、理解しかなる点があることを最初に申し述べます。

さて内容に関してですが、それぞれの会社からの報告書および原子力安全保安院の資料には、(1)緊急安全対策、(2)シビアアクシデントへの対応措置が記されています。どれも内容の詳細の程度の差はありますが、ひな型を真似た同じものであるという印象を受けます。日本の原子力行政には、みなが同じことしか言わないという特徴がありますが、今回もまさにその例だと思いません。

特にシビアアクシデントの対応は、内容の乏しいお粗末なものと言わざるを得ません。また、福島事故の当事者である東京電力の報告書が最も貧弱であることも気になります。

電源喪失、津波対策など、ここに示されているものは、福島事故を受けての、各論的対処方法ですが、本質的には福島事故以前の安全神話そのまま生き残っている印象を受けます。「これこれの対処したから、事故は起こらない」というのは、福島で事故が起こる前の発想です。その安全神話が壊れたのだという前提から始めるべきでしょう。

したがって、福島のような事故が起こったらどうするか、という前提で考えるべきだと考えます。

たとえば、

- (1) 過酷事故が起こった時に、住民はどのように対応すればよいのか。福島の例でも自治体からはなにも指示が出せず、住民自ら避難し始めたという指摘もあります。住民の命と引き換えに、原子力施設を維持しなければならぬ理由が理解しかねます。
- (2) どうすればポケット線量計が手に入り、ヨウ素剤を摂取できるのか。どういう経路で逃げればよいのか、そういう具体的な危機管理が必要です。
- (3) そのとき、それぞれの当該会社、あるいは県はどのように住民を助けるのでしょうか。そういうシミュレーションがなければ、安全性を判断できないと考えます。



- (4) また、今回の対応策には全く述べられていませんが、六ヶ所村の再処理工場の近くには活断層のある可能性が高いことが以前から指摘されています。青森県や日本原燃はこれまで拒否し続けていますが、この問題に関してもその危険性を指摘している科学者と住民を交えてきっちりした科学的な意見交換を行い、安全対策を講じるべきだと思います。

このように、直下型地震も含め、事故防止のための安全対策、さらには、事故が起きた場合まで想定しての安全を考えると、そのコストは莫大になることが試算されています。事故が起こった時の保障も考えあわせると、原子力施設を民間会社に任せておくべきではない、という議論が始まっています。原子力を推進することによる、莫大なコスト、住民と作業員などの人命軽視、核廃棄物を半永久的に後世へ残すこと、これらを考えると一日でも早く、原子力政策からは脱却すべきと考えます。

最後に、青森県内の原子力施設で、特に危険の大きい再処理工場で過酷事故が起こった場合は、青森県民は大きな被害を受ける一方で、世界中に多大な迷惑を掛け、加害者となることになります。私たちはもちろん被害者になりたくありませんが、それにもまして他の地域に被害を及ぼす加害者にはなりたくありません。福島のような事故が青森で起こった場合には、三村県知事は、その最終判断を下した責任者として、後世まで名を残すことになってしまうでしょう。

そうならないためにも、私たちは青森県での原発、核燃料サイクル施設の稼働に反対し、原子力依存からの脱却を切に要望します。

昨日の首相の脱原発表明も、国民世論の大きなうねりに押されたものでしょう。青森県の主力新聞である東奥日報社も社説の中で脱原発に舵を切りました。この時期に原子力政策を維持するのは、それによって大きな恩恵を受けている人に限られてきた感じがします。確かに、青森県にはこれまで国策に翻弄され続けた歴史があります。これは、やはり青森県としての独自のビジョンが不足していたためでしょう。この世界的な脱原発そして再生エネルギーへの転換への潮流のなかで、今度こそ県知事としての正しい判断を期待したいと思います。以上が私たちの会からの意見です。

「核燃サイクルと青森県を考える緊急アンケート」結果公表

7月19日、当会が5月に実施した全県の首長、議員、農漁協組合長、商工観光関係団体の長931人を対象に実施した緊急アンケート調査結果を公表しました。260通の回答を、大坪代表が集約し、分析しました。アンケート結果の概要は、福島原発事故について「想定外の出来事でしたか？」との質問には、「想定外」とした割合は55%、事故により原発への考え方が「変わった」とした人は84%を占めました。どのように変わったかという質問（複数回答）については、「もっと慎重に推進を」63%、「安全神話が崩れた」53%、「エネルギー政策転換を」51%となっています。

だまっちゃおられんの会では、2008年にも同じ質問項目でアンケートを実施していますが、地域づくりでは、「核燃と共存した形で行った方がよいと思いますか？」という質問に、前は、「共存すべきだ」と「共存すべきでない」が、35%ずつで同率でしたが、今回は、「共存すべきだ」が26%に減り、「共存すべきでない」が48%に増えています。多くは三村県政を支える立場にある人の意見です。分析結果の詳細は、ブックレットNO3（7月末発売）をご覧ください。

だまっちゃおられん活動報告

- 6月 5日（日）「みつばちの羽音と地球の回転」上映（生活クラブ生協）（鑑賞：宮永、藤原）
- 6月 6日（月）県民医連医学学生学習会講師（宮永、仁平）
- 6月10日（金）津軽保健生協相馬支部沢田班、核燃・紙芝居上演6名（藤代健生佐藤氏上演）
- 6月10日（金）会報17号発行
- 6月11日（土）核燃料サイクル施設立地反対連絡会議総会・学習会
- 6月13日（月）津軽保健生協本部、核燃・紙芝居上演12名（竹浪上演）
- 6月15～17日 テレビ東京（BSジャパン）「報道局ニュースセンター ワールドビジネスサテライト」
- 宮永代表出演「原発の過去と未来」
- 6月16日（木）弘大ランチ会議（6名）
- 6月16日（木）2011年度第2回運営委員会
- 6月16日（木）BS ジャパン「ワールドニュースサテライト」で六ヶ所再処理工場のコスト問題放映 宮永代表解説出演
- 6月18日（土）関西放送トミーズの番組に宮永代表電話生出演
- 6月18日（土）県民医連中堅Ⅱ期研修① 大坪代表講師36名（大坪）
- 6月23日（木）安藤代表県議会一般質問でファイル配布問題を追及（安藤）
- 6月26日（日）小出裕章講演会（於、青森アピオ）約300名
- 6月27日（月）津軽保健生協十面沢班、核燃・紙芝居上演8名（藤代健生佐藤氏上演）
- 6月29日（水）津軽保健生協原発・被曝問題学習会講師活動30名（仁平、鈴木）
- 6月30日（木）県民医連医学奨学生対象勉強会 安藤代表講師（安藤）
- 7月 6日（水）県にクリアファイル配布問題で抗議要請行動（宮永、安藤、仁平、坂本）
- 7月 8日（金）住民本位の震災復旧・復興を！原発・核燃反対！弘前集会80名（宮永、大坪、安藤、仁平、山本、坂本、中澤、須藤、藤原、黒沼、安藤房、二川原、三浦、竹浪）
- 7月 9日（土）弘前革新懇総会記念講演 安藤代表講師（安藤）
- 7月 9日（土）青森県国民教育研究所講演会宮永代表講師（宮永）
- 7月14日（木）県内原子力施設の安全対策に関して宮永代表陳述（宮永、高松）
- 7月16日（土）津軽保健生協看護奨学生対象、核燃・紙芝居上演21名（竹浪上演）
- 7月16日（土）高齢者大会プレ企画講演 大坪代表講師（大坪）
- 7月19日（火）核燃事業アンケート記者会見（宮永、大坪、三浦、竹浪）
- 7月21日（木）弘大で日本原燃からの寄付講義について審議、徹底して闘う（宮永）
- 7月21日（木）2011年度第3回運営委員会

<ブログ発行状況>

- 5/24 緊急シンポジウム開催します（三浦）
- 5/27 青森県内の小学生にクリアファイルとエネルギーカレンダー配布（三浦）
- 5/31 6月2日18:00緊急シンポジウム（三浦）
- 6/7 青森県知事選挙結果（三浦）
- 6/9 メルトダウンの先があったとは・・・（三浦）

【OPINION】

「平井憲夫」を知って欲しい

平井憲夫は、1997年に亡くなった元原発労働者です。原発被曝労働者救済センターの代表等を務めました。「原発がどんなものか知って欲しい」という文章を書き残しており、現在もネットで全文を見ることができます。
<http://www.iam-t.jp/HIRAI/>
以下、その目次です。

1. [私は原発反対運動家ではありません](#)
2. [「安全」は机上の話](#)
3. [素人が造る原発](#)
4. [名ばかりの検査・検査官](#)
5. [いかげんな原発の耐震設計](#)
6. [定期点検工事も素人が](#)
7. [放射能垂れ流しの海](#)
8. [内部被曝が一番怖い](#)
9. [普通の職場環境とは全く違う](#)
10. [「絶対安全」だと5時間の洗脳教育](#)
11. [だれが助けるのか](#)
12. [びっくりした美浜原発細管破断事故！](#)
13. [もんじゅの重大事故](#)
14. [日本のフルトニウムがフランスの核兵器に？](#)
15. [日本には途中でやめる勇気がない](#)
16. [廃炉も解体も出来ない原発](#)
17. [「閉鎖」して、監視・管理](#)
18. [どうしようもない放射性廃棄物](#)
19. [住民の被曝と恐ろしい差別](#)
20. [私、子供生んでも大丈夫です。たとえ電気がなくなってもいいから、私は原発はいやだ。](#)
21. [原発がある限り、安心できない](#)

原発の実態がよくわかる文章であるので、ぜひ多くの方に読んでいただきたい。

（佐藤克己さんより）

- 6/11 村上春樹氏の意思表示（三浦）
- 6/12 イタリアで国民投票（三浦）
- 6/20 100000年後の安全鑑賞（三浦）
- 6/22 高速増殖炉がメリーゴーランドに（三浦）
- 6/27 宮永代表がテレビ東京に出演（三浦）
- 6/29 あの人は誰？県原子力安全対策検証委員会（三浦）
- 6/30 新作落語「福島原発」（三浦）
- 7/5 明日、県知事に抗議と申し入れに行きます（三浦）
- 7/7 「あおもりの電気」クリアファイルを小学生に配布したことに対する抗議（三浦）
- 7/12 7月27日 弘前大学で学生向け講演会行ないます（三浦）
- 7/15 県知事に意見陳述（三浦）
- 7/19 青森全県首長、農林漁業組合長、商工観光関係団体アンケート結果（三浦）
- 7/20 核燃緊急アンケート結果公表


だまっちゃんおられんブックレットNO.3 NO.4 できました

（各¥200 絶賛発売中）

核燃・だまっちゃんおられん津軽の会

**福島原発事故と
青森県の核燃反対運動**


—第2回青森県地域団体代表者緊急アンケート調査の結果から—



弘前大学教育学部教授 大坪 正一

核燃・だまっちゃんおられん津軽の会ブックレット NO3

核燃・だまっちゃんおられん津軽の会第4回総会記念講演録



**FUKUSHIMA 何が起きているのか
～原子力終焉への序章～**

弘前大学理工学研究科准教授 鈴木 裕史

核燃・だまっちゃんおられん津軽の会ブックレット NO 4

【だまっちゃんおられんメール情報配信開始】

会員の皆さんから事務局に寄せられた情報、学習会や映画のご案内等を、メールで配信するサービスを始めました。

ご希望の方は、事務局（下記）までメールアドレスを送信してください。

全てBCC配信しますので、セキュリティーは安心です。登録料金は、無料です。

また、会員の皆さんが、これは多くの人に知ってもらいたいと思う情報がありましたら、ぜひだまっちゃんおられんメール情報にお寄せください。事務局からメール登録者に一斉送信致します。

【カンパのご協力ありがとうございます】

4/6 宮永崇史他4名	7/3 竹浪純他2名
4/26 宮永崇史他5名	7/4 工藤真智子
4/27 三浦協子	7/9 宮永崇史
5/10 仁平将他3名	7/11 西村政恒
5/15 福士勲	他2件（敬称略）
5/19 宮永崇史他11名	
5/19 総会会場カンパ	
5/19 科学者会議青森県支部	
5/25 高松利昌他3名	
6/2 緊急シンポジウム会場カンパ	
6/6 宮永崇史・仁平将	
6/6 仁平将他2名	
6/23 高地豊人・大坪正一	
6/24 佐々木紀勝・暢子	

発行：核燃・だまっちゃんおられん津軽の会事務局

連絡先：080-5229-6076（竹浪） takenami@coral.ocn.ne.jp